

あまでうす

去年の事になるが、中央図書館で地元に住む女性小説家の『小説家の仕事』をテーマに講演を一時...

短編小説を『各務原道遥』と云う作者名で書いている。名前の由来(そんな大げさなものではないが)...

が今までに訪ねた場所を舞台に、毎回必ず妖怪を登場させて創作している。妖...

生みだされたものと云える。数多の浮世絵師たちも妖怪を描き、葛飾北斎「百物語 お岩さん」...

ことなく親しみのあふ存在に描き、市井の人々によく売られていたとゆう。今まで...

風地蔵新聞

第150号 編集 風地蔵 白石 美帆 発行 503-0922 岐阜県大垣市馬場町85...

ワンコの死

鎌澤 宣子

今年の一月二十二日、十四年飼っていた我が家のワンコ「ロン」が死にました。老衰です。平成十四年三月二十八日、我が家にもらわれてきました。名前は息子が当時愛読していた小説「ロンダニーニの黒い犬」からとりました。

ロンを飼うことになったきっかけは、息子が中学に入学してから「僕弟がほしいな」と、いまま一度もそうだったこのなかつた子が、突然言いまして。一人っ子なので、友達はお兄さんやお姉さん、弟、妹がいたり、友達の家遊びに行くのを兄弟で会話しているのを...

見てうらやましいと思っただけでしょうか。息子も小学校低学年までは、私の姉妹の家によく遊びに行き、兄弟のようになつて仲良くしていたのですが、大きくなるにつれ、遊ぶことも減ってきたのもあつたのだと思ひます。そうはいっても弟を作つてあげることが出来ず、どうしようかと思つていたら、「犬飼いたいな」ということになり、探していたところに我が家に来たのが「ロン」です。

生後二ヶ月で、たまたま誕生日が息子の生まれた2日あとで、一月二十八日オスです。名前も正式名は、息子の愛読書の本の題名そのままなんです。「なんでこの名前なの?」と聞くと、「本に出てくるまま、真っ黒なんやて。」

だから。「とのこと。なるほど。」と思わず納得です。それからは、息子は学校から帰ってくると、ロンにひとしきり学校のこつとや愚痴を言い、時には、顔をもみくちやにしたりと何をされても文句を言わず、むしろ喜んでいようになつていきました。

私たちが疲れたり沈んだ顔をして帰つてくると、どうしたの?という顔をしたり、ケガをしたりしているところをなめようとしていたりします。家族全員がロンに癒やされて、ずっと一緒にいるのが当たり前になつていました。そんなロンが去年九月以降から、何でもないとどこで散歩中に転んだり、ご...

飯をあまり食べなくなつたりして、最初のうちは「どうした!」と笑つていたのですが、そうして来たのがだんだん増えてきて、そのうちに散歩も以前のように、ひっぱつて行くこともなく、私の後ろを歩いて歩くようになり、長い距離が歩けなくなり、十二月くらいからは家の前の道路を歩くのがやっとになり、今年に入つてからは、自分で歩くことも出来なくなつていきました。それでも外に出たがるので、抱いて外に連れて行つてました。毎日、朝出勤するとき、息をしながら確認して帰宅すると、また声をかけての繰り返しをしていきました。一月二十一日、私が家に帰つていつものようにロンに声をかけましたが、いつもの反応がなく、顔をのぞき込み、体を触ると冷たく固まっています。

ガラステルを開けて、ダ...

ンナと息子に、「ロンがおかしい。死んだよ。どうして気がつかんの。家にいて。」と思わず怒鳴っていました。「なんでちゃんと見といてくれるの。」と当たり散らして、「たった一人で死んでいったやん。かわいそうやろ。」と。

それからしばらくは放心状態です。何も手に着かず、ご飯を食べる気にならず、息子に「母さんが、ペットロスになつてどうすんの。」と言われ、そこから涙が止まりませんでした。しばらくは、ロンのいたところを片付ける気になれず、三月に入り、ようやく心の整理がついて、少しずつロンの物を片付け始めました。病気一つしないので、手のかからないワンコでした。「ロン本当にありがたう。思い出すと悲しいけれど忘れないからね。」おわり

# 川風

しらいしみほ

ことしも 行ってきました。

菊池映画祭！

金・土・日でした。

初日は 映画「うつくしいひと」のレッドカーペットが山鹿八千代座で。ゲストは前回の菊池映画祭では 最前列でみつめた

高良健吾をはじめ高橋愛 石田えり 姜尚中 米村亮太郎と熊本出身俳優陣のオーピングで熊本出身の わたしとしては 行きたくつてたまらなかつたのに主婦の私としては そうそう身勝手もできません。

どこで行けるかな。日曜日は ダンナちゃんも お休みだけ見たい映画がなさそう。5日の土曜日は 前々から行こうと予定してた柳川で琴奨菊のお祝いパレードもかぶったのだけどちょっと迷って、行くならここしかない

生の「中井貴一」を選ぶ私でした。 朝7時に家を 出た。 菊池へGO。 「特集 中井貴一」 去年は家族3人で 映画祭行ったんですけど、今年はおひとり様です。ついたら もうすでに長蛇の列！

チケットをまだ変えてない方は 受付でと 叫ばれてます。 当日券は、ついでに聞くと、並ばれている1日フリーパス3000円の方が入られてからの案内です。立ち見もできまస్తుのこと。 いやいや めのまえにこれだけの人数見て、当日券待てません。

「どうぞどうぞ。」とわたしを 先に入れてくれる紳士だ！ それから 横入りしてくる おばちゃんからじいちゃんを 守りながらフリーパスの人ってわかる私の前に 通しました。待ちながら じいちゃんに 1日みるんですかって聞いてみた。 「まえば 菊池にも二つ映画館のあったばってん今は なかもんな。どうせひまだけん」

「まえば 菊池にも二つ映画館のあったばってん今は なかもんな。どうせひまだけん」 普段映画を見ない 庶民の地域の方が並んで来られる映画祭って素敵！ 行定監督の ねらいでしようか。

前置きはこれくらいにして まずは1本目のはじまりです。 映画「その木戸を通して」 上映。なんと 原作は山本周五郎だ！あたしの最近この年ではまった日本時代の物。 監督は市川崑。 日本で初めてのハイビジョン映画で中井貴一さんに「上映されないよ。たためし作品だよ」といわれても引き受けた 作品なので 見た人は貴重な映画らしい。 個人的には好きな女優さ

んだけど 浅野ゆう子の現代のドラマの顔が見え隠れしてるのが 山本周五郎から すこしはなれるのだけど 市川崑さんの映像美には ぴったりなんだろうな」と思いながら見てました。 名前を後で思い出したけど フランキー堺って うまいんだなって 思った。 横道にそれますが あたしのなかで山本周五郎VS 藤沢周平どっちなんだろうって 大垣にいる頃両者の本を読み漁った。 映画のイメージも強いのは 山本周五郎の市井の人々をかくものにひかれた。メジャーな 藤沢周平の作品の原作は いまいちで 映画化されてないのが 好きだと気が付いたりした。それが映画化されてみると、武士の一分とか 最高で特に 風の音、衣擦れの音、鳥の声にじびれたのだった。 原作と監督と 役者と。。 難しい問題だ。 きつと、自分の人生のほかりが深ければ深いほどいいものが もっといいものと思えるんだろう。いま見ると、違って見えるのかもしれない。 お昼休憩があった。 「フードコーナーは外です。」

車とか車がお店屋さんになつてるのが ならん。 「いまきん??」 ああ、いまきん?? 阿蘇で 並んで食べた 赤牛ドンの今金食堂が 赤牛ドンを弁当にして出してるじゃありませんか。 しかも 大将直々に！ 「決めた！ 昼からののもう一本見て帰ろう。」 いっただきまうす！ そうそう、映画が終わるたびに 行定監督と中井貴一さんのトークと質問コーナーがたっぷりあるんです。 このあとの 映画「東京上空いらっしやいませ」は 傑作だ！レンタル屋にもありません。 行定監督が押してきた。 どうやら 本日の選んだ3本！ には 強い思いがあるらしい。 牧瀬里穂。 ないな。 帰ろうと思つてた後ろ髪をひかれ今金食堂で、心が決まったのだ！！ 上映がはじまるとすぐに カタカタカタカタ。。 と小刻みに音がする。 35mmフィルム上映だ！ やっぱり！予想を裏切らずなんで こんな棒読みなんや！と これも演技指導かな。 と ちよいいやらしながら何かがあるに違いないと がんばる。 古湯映画祭でみた役所広司監督の作品。。で、今流行りだした 二階堂ふみとまつたく、同じトーンでのせりふ回しだと

びつくりする。 おじさんの監督の 理想にする少女とは こんなイメージなんだって がっかりした。 これも いまのあたしの立ち位置だろうから10年たてば 見方が違うのかな。 けど あるシーンから次第に 自然になつてきた。 そして ラストシーンが 泣けた。 せりふでもなんでもなく 中井貴一の ある行動に ジンとしたのだ。 そのシーンで、今までのあの 妙にテンションの高い 理想の少女イメージが ひきしまつた。 つながつた！！

中井さんに伝えたいことがあった。「はだしのゲン」がドラマ化された時、原作者・絵の中沢啓治さんと お会いした。 「父親役が 中井貴一さんって聞いたとき、飛び上がるほどうれしかった。とても好きな役者さんで、そうなければいいなあ」と内心誰にも言わずに思っていたので、 聞いたときには 耳を疑つた。 中井貴一さん本人に 中沢さんは伝えたのかな。 つて思いつながら、いま、天国の中沢さんを見た。 質問コーナーでは、あてられて「岐阜から来ました」って女性がいたけど、去年の人と同じなんだろうな。 菊池映画祭に 2年連続違う岐阜の人が来て、数人しかあたらぬ、のに当たるつてないよな。 思つた。 ひとり、しっかりと。 おじいさんにあたつた。 このあとのフィルム上映 「この広い空のどこかに」 を昔 芝居小屋でみましたと

中井貴一さんのお父さんが 物干し台の上で女優さんと空を見上げてるシーン今でも目に焼き付いて忘れません。 その映画を また見に来たんだって伝えられてるとき、中井さんの目頭が真つ赤なつたのを見た。 すぐに ジョークを交えて、切り替えられたのが 都会人だなく。 ジーンと来てくれて うれしかった。 あたし、一番前だから 表情もしっかり見えたけど きつと おじいさんにも 伝わつただろうな。 つて。 今夜、きつと菊池の人たちの胸が 高鳴るんだらうな。 生きる意欲がわくんだなく。 まだまだ いろんな意味で映画だけでなく こうしたつながりの中で あたしの中に入ったものがきつとこれからの生活の中で少しづつ浮かぶことになるといふ。 映画っていいよな。 つて すつごく思った。

ありがとうございました。

ちよつと立ち話

バックナンバーはなにの？  
(エステのMさん)

いつも楽しみにして  
いるんです。  
(ご近所の方)

いろんなところに行っ  
てるよね。  
(ギターの中野さん)

ピカソ展行かれたん  
ですね。私も大阪の  
娘が帰ってきたので、  
3月に行ってきたし  
た。  
(エステのHさん)

私は1月3日にピカ  
ソ展に行ってきたし  
た。  
「印象に残った絵は  
ありませんか」と店  
長に聞きました。お  
父さんの手を引い

ている子供と家族が砂浜を歩いている絵です。店長の答えは「ゲッサンの絵かな。男性のシンボルがリアルに描いてあったところ」人それぞれですが、「思わずそこっ！」と言ってしまうました。店長、九州旅行楽しんできてください。高千穂峡に連れて行ってもらってくださいね。病院の先生も万能じゃないです。不安を感じたら、一人の先生を信用しても、他の病院に行く勇氣も必要ですね。横になると息が出来てなくて苦しくて寝れないんですよ。  
(原)

作品を目にしました。ピカソは画家の中で一番作品を残して、私が目にした絵からは想像が出来ないくらい、少年時代からの絵はほとんどデッサン画というのを初めて知りまし。当にステキです。法律のことは本場に難しいです。原先生ののを読んでもちんぷんかんぷんです。先日店長、九州に行くからとオーナーかは大丈夫です。お店は大丈夫です。いつかはわかりませんが日頃のストレスを発散してきてください。甥っ子さんすごいです。園ですか。ある意味素晴らしい新年を迎えられましたよね。まさに青春って感じですよ。笑  
(大橋)

セカンドオピニオンは本当に大切ですね。大事なことですがなかなかしないことでもありません。おぼあさん大事に至らなくて良かったですね。原先生の法律の話は難しいですね。奥田さんすごいです。甥っ子さん、本当に実力がないといけないですよ。花園よい一年のスタートでしたね。あまでうすさんの小説の舞台になったところ、昔風景百選に行ってみたくなりました。九州旅行、原先生や大橋さんもいけるように頑張んなきゃと。そのためにも今回は英気を養ってきます。ありがとうございます。  
(鎌澤)

感じたところをもつと聞きたい。大橋さん、つくしんぼの思い出。ポツとあったかくなりまし。故人を思うことが一番の供養ですね。九州では、佃煮とか、甘辛く煮てあったりとか。大垣に来て卵とじがメジャーなの驚いた記憶があります。ロンの死。どうしようもないことを時がいやしてくれるのを待つのは苦しいですね。今更ながら、その日、それから、店長が朝のミーティングで、そのそぶりを全く見せなかつたのをすごい！と思いましたが。いろんな困難を乗り越えて人は強くなるんだと実感しました。  
(みほ)

季節を感じる

大橋 美紀

3月の上旬の朝、我が家の庭につくしが顔を出しているのを見つけました。10年ぐらい前から庭に毎年、つくしが春を告げてくれるようになっていました。日当たりがいいので、少し早く顔を出してくれま。そこで写メに撮って店長に送信。店長と言えば、オーナが福岡に行かれてから、いつも気を張り、店のことを何よりも一番に考え、

私たちのことをより思い、もちろんお客様を第一という気持ちで、傍にいて強く感じています。店長が今日一日、ほっこり過ごして頂きたい気持ちからでした。つくしで思い出すことは、亡くなった義母が元気だった頃、毎年この季節になるとあちこちにつくしを採りに行っていました。スーパの袋、一袋や二袋じゃなかったです。何袋も採ってきてはハカマを取り、きれいに洗って二度茹でて、それをビニール袋に小分けしてお母さん専用の

冷蔵庫の冷凍室に入れ、一年食べれるようにとこの季節は毎日堤防の土手に出かけていました。あのほろっと苦いのが美味しく大好きだと言っていました。私も何度かハカマを取った状態でも頂きました。あのハカマを取るのも大変なんですよ。指先は真っ黒になるし、またそこからあくを取ってからの調理です。だしやお酒、みりんにお醤油で味付けをし卵でとじる物です。たぶんこれは皆さんも耳にした作りかえりですね。母はこの卵と

じが大好きでした。他にも生のまま天ぷらにしたり、油炒めと、季節を楽しんでいました。先日道の駅でつくしが売ってました。なんと小さな袋で150円で。ビックリ。そんなにあのつくしがするのかわかりました。お客様が名古屋の料理屋さんで食事をした時、季節物としてつくしの佃煮があったそうです。値段はなんと3000円だったそうです。そっくりかえるほどビックリしました。この辺に山ほど生えている

つくしが都会では高級な食材なんです。その反対で、石川県出身の常連のお客様はつくしが生えていても食わずに足踏んでいましたよ。石川の方は食用としてみてないそうです。いま、土手のあちこちでつくしを採っている方がみえます。その姿を見ると母を思い出します。つくしを見ると採りたくな。そんなことも言うていました。つくしの卵とじが食べたくなりました。

